

Discovery

September 2016 vol. 11



株式会社日吉



info@hiyoshi-es.co.jp

www.hiyoshi-es.co.jp/



2016インド・インターンシップ終了式にて

本社:〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店:〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)

インターンシップ



日吉は「環境問題に国境はない」という信条のもと、80年代末から海外学生の受け入れや現地の大学や研究機関との提携を進めてきました。独自の制度を整備し展開しているインド・インターンシップもそのひとつです。

インド

2名のインド人インターンを受入れ 2016.5.18～2016.7.15

今年もインド・インターンシッププログラムの学生が2名来日しました。選考されたのは、ニルマラさん (SRM大学環境科学技術専攻、博士課程1年)、リーナさん (Anna大学環境工学専攻、修士課程1年) です。

5月18日に来日し、ダイオキシン類のデータ解析や水質の一般分析を共通で研修した後、約3週間にわたって専門分野の業務を体験。河川水中の有機塩素系農薬について論文発表したニルマラさんはケイラックス®と食品、廃棄物管理や排水分析に興味を持つリーナさんは水処理と排水分析の研修を受け、7月15日に帰国しました。

インド・インターンシッププログラム

日吉独自で実施している本プログラムは、日印の懸け橋となる次世代の養成と、インドにおける日吉ネットワーク拡大をめざし2006年に開始しました。11年間で25名が来日し、日吉にて環境研修を受講。今年度はインド16州、45大学から77人の応募があり、ABK-AOTS同窓会の協力のもと、2名が選考されました。

研修生の課題である電気電子機器廃棄物への対応も見据えた研修

これまでの研修生が特に関心を持ったのが、浄化槽の有用性、効率的な廃棄物処理、また廃棄物を通じたビジネスの可能性などでした。ごみがビジネスになるということは大きな発見だったようです。今回来日した2名の共通課題が電気電子機器廃棄物、いわゆるE-waste (Electronic waste) でした。

先進国で使用されたパソコンなどの電子機器の多くが中古品として違法にインドを含む途上国へ輸出され、そこから貴金属を回収するために、原始的に焼却や塩酸洗浄などが行われており、作業者の健康や周辺の環境汚染が問題となっているのです。研修生はこの廃棄物や周辺環境について調査していました。その成果をより大きいものにできるよう、研修は水処理・浄化槽の点検や水質分析、ダイオキシン類の分析を中心に行いました。報告会では、日吉での分析のトレーニングは、携わってきた研究に対しても有益であることを示しました。

日吉は研修生に対し、帰国後はインドと日吉の架け橋としてのみならず、インドの環境についてさらに考え、今後の活動につなげてくれることを願っています。



八幡東中学校・八幡工業高校職場体験 2016.7



7月4日～8日の5日間、八幡東中学校から職場体験に訪れた2年生3名を環境部で受け入れ、ゴミ収集業務の体験や施設見学の機会を提供しました。続く11日～15日の5日間は、八幡工業高校2年生2名を環境部・技術部・薬品部・総務部で受け入れ、部署ごとの業務を体験。「仕事そのものの意味や社会、環境とのかかわり、役割について学ぶことができた」といった感想がありました。

参加校

■ 八幡東中学校

■ 八幡工業高校



村田社長が滋賀県立大学で講演 「地域産業・企業から学ぶ社長講義」 2016.6.20



滋賀県立大学では独自の地域教育カリキュラムとして「地域産業・企業から学ぶ社長講義」(1回生対象・全15回)を実施しています。滋賀県の産業・経済の特徴や地元企業が抱える課題や特色、期待される人材像などについて、県を代表する企業のトップが直接学生に語りかける機会です。

第10回の講義に当社村田社長が登壇しました。環境をキーとする産業や法令、ビジネス市場、グローバル化への挑戦、また近年の諸外国の成長やGDPの推移など、世界の動きに対する日本の学生の意識の違いや、そこに潜む将来への懸念などをわかりやすく伝えました。社会に出るまでの限られた時間のなかで、いかに考え、いかに学ぶか。示唆とともにエールを贈りました。

長浜バイオ大学 「社会との関わりとキャリアパス」でOB社員がスピーチ 2016.5.21

「社会との関わりとキャリアパス」は3回生を対象としたカリキュラムで、社会に出るための準備の一環として行われています。業界や職種、そして企業そのものなど、実感しにくい社会人生活について、OBたちのリアルな体験談を通じて理解し、働くことへの意識を高めていくことが目的です。今回は当社社員を含む11名の卒業生それぞれが、いまの仕事と会社の紹介をはじめ、入社動機や入社後の自分に対する評価、仕事に対する「プロフェッショナルリズム」を熱く語りました。討論会では現役学生の生の声に触れるなど、当社にとっても有意義な機会となりました。



日越大学修士課程開設直前セミナー ～ベトナム初グローバルで活躍する人材育成～ 2016.6.1

2014年に設立された日越大学において、本年9月に修士課程が開設されました。ベトナムの新たな“最高水準の教育・研究・人材育成拠点”として、また現地の社会的ニーズに応える実践的人材の養成など多くの期待が集まっています。

開設直前セミナーでは大学側からビジョンが示され、また卒業生の活躍の場としての日本について、日吉をはじめいくつかの企業がその経験や意見を語りました。日吉の海外事業への取り組みや、国内外の人材育成システムの具現化を一歩進める機会にもなりました。



「環境と健康」について講演 2016.6.28

6月の「環境月間」にあわせて独自の啓発活動を実施している企業からの要請により、林賢一顧問が「環境と健康」をテーマにふたつの講演を行いました。第1部は「環境と健康～持続可能な社会と循環型社会の形成を推進するために～」をテーマに大気汚染や水質汚濁が人の健康に及ぼす影響や滋賀県の取り組みについて解説、第2部は「食中毒予防の基礎知識～食中毒のリスクは回避できる～」というテーマのもと、その怖さと予防について語り、延べ120名の方が聴講しました。毎年6月は環境月間、この月に限らず環境について考える機会が増えることを願っています。



社会貢献

琵琶湖博物館の水槽サポーターに！ 2016.7.12

7月14日の滋賀県立琵琶湖博物館第1期リニューアルオープンに先駆けた内覧会が開催され、日吉は「ビワコオオナマズ」の水槽サポーターとして協賛している関係から、当社の社員が参加しました。

博物館は今年で20周年、琵琶湖固有種の展示をはじめ、姉妹湖であるバイカル湖からのチョウザメの展示で知られています。また日本の古くからの生活模様や、森林の生態系を学べるエリアなどコンテンツも多彩です。琵琶湖の水の大切さや生態系の変化を伝える展示は子どもたちにもわかりやすく、次世代の環境に対する興味や意識の向上につながることを私たちも願っています。

本館で検索
株式会社日吉

SEARCH
館内に銀のパネルがあります。
ぜひ見つけてください。



環境少年団 2016.8.6

環境少年団は、近江八幡市子ども会育成者連合会が主催しており、日吉は、協賛企業として毎年8月に環境教育を担当しています。企画は新入社員が中心となって行い、これまでも多くの参加者や保護者から好評を頂いてきました。今年のテーマは「音のふしぎ発見」。日吉の新入社員が子どもたちと一緒に音について学びました。その後、子どもたちと沖島産の食材を使用したお弁当を食べ、地引網体験をしました。この経験を通じて、立場を超えたコミュニケーションの重要性や協調、協働の在り方を学び、また地域の環境や生活、歴史、伝統に触れる機会としています。



- 用紙：琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ：大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生するCO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量：169.874kg/3,000部